

カラフル通信



「北風と太陽」

ある日、北風と太陽が力比べをしました。そこで、旅人の上着を脱がせることができるかという勝負をしました。まず、北風が力いっぱい吹いて上着を吹き飛ばそうとしました。しかし、寒さを嫌った旅人が上着をしっかりと押さえてしまい、北風は旅人の服を脱がせることができませんでした。次に、太陽がさんさんと照りつけました。すると、旅人は暑さに耐え切れず、今度は自分から上着を脱いでしまいました。これで、勝負は太陽の勝ちとなりました。



解説

手っ取り早く乱暴に物事を片付けてしまおうとするよりも、ゆっくり着実に進む方が、最終的に大きな効果を得ることができる。また、厳しい態度で人を動かそうとしても、かえって人はかたくなになるが、暖かく優しい言葉を掛けたり、態度を示したりすることによって、初めて人は自分から行動するという組織行動学的な視点もうかがえる。

現実

学校では、「指導」が難しいときには「支援」をします。肯定的な言い方でやるべきことを伝えるなどです。行動を否定されても、どうしていいかわからないので、余計に混乱してしまいます。怒るのではなく、代わりにするべき行動を示します。例えば、授業中に離席したり、しゃべったりしている児童がいる場合には、「うるさい!」「だまれ!」ではなく、「授業中です。自分の席に戻ってください。」「話をしているので、静かにします。」「今やることは〇〇です。」と感情的にならず、具体的に指示を伝えます。感情的に怒ったところで子どもには「先生に怒られた」「はあ!?!」「うざっ」「なんでおれだけ?」という印象しか残らないことが多く、なぜ怒られた?何がいけなかった?だからどうすればいい?という考えまで残念ながら至りません。(もちろん時と場合によっては怒ることも必要です。)

「すっぱいぶどう」

キツネが、たわわに実ったおいしそうなぶどうを見つけました。食べようとして跳び上がりましたが、ぶどうはみな高い所にあり、届きません。何度跳んでも届かず、キツネは怒りと悔しさで、「どうせこんなぶどうは、すっぱくてまずいだらう。誰か食べてやるものか。」と捨て台詞を残して去って行きました。



解説

目的や欲求が達成されなかったとき、その欲求と現実のギャップを埋めるために、その対象を「価値がない・低級で自分にふさわしくない」ものとみてあきらめるなど、自分に都合のいい理屈で埋め合わせし、心の平安を得ようとする心理メカニズム。心理学では「合理化」の一種の”すっぱいブドウの理論”という。

現実

できないことがある、分からないところがある、他のみんなはがんばっているのに…。そんな自分に不安を感じ、不安をごまかすために、ふざける、場を乱す、取り組まない、などの手段で心の安定を図っている可能性があります。その裏に「できるようにになりたい」「がんばりたい」という欲求があるからこそ、不適切な行動として現れるのです。だから、不適切な行動をただ「怒る」だけでは何も変わらないのです。

(参考: Wikipedia)

だからこそ「支援」が必要なのですが、学校でできることにも、私にも限りがあります。何よりご家庭との共通理解ほど心強いものではありません。日頃から学校の教育方針に理解を示し、ご協力くださりありがとうございます。